

会員座談会報告
日本文化の特徴とこれからの日本

日時 2011年1月20日 15.30～17.00
場所 原子力技術協会 会議室
講師 (株)日立製作所 名誉顧問 久野勝邦氏
司会 荒井利治

講演概要

日本の文化について、海外文化（特に西欧文化）との比較の中で、その特徴を明らかにするとともに、これからの日本がグローバルな環境に適応していく為には、どのような変革が必要か等について、講師のお話をお聴きし、その後若干の質疑応答を行った。

(1) 日本文化に関する見方（問題意識）

日本は日中戦争から太平洋戦争に至る間の経緯に見られるように、グローバルな環境への対応での失敗例が多いが、その根本的な原因を探るには、日本文化の特殊性を分析・整理することが重要である。その結果を踏まえて、今後日本がグローバルな環境に旨く適応していく為には、日本の文化を変革していくことが課題となる。

(2) 日本の文化と欧米の文化

日本人が無意識に考えている感覚・意識と欧米人（特にアングロサクソン）の感覚・意識を比較すると次のような違いがある。

- ・日本人の感覚～定常・安定した世界観を持ち、**母性原理**の意識である。～現状への安住の中で生きる。

共同体社会（仲間意識）、調整型リーダー、集団主義・権威主義の意識、性善説を信じようとする、信頼関係を重視、平等社会を目指す等の特色がある。

- ・欧米人の感覚～進化・発展する世界観を持ち、**父性原理**の意識である。～将来への挑戦の中に生きる。

機能体社会（目的意識）、率先型リーダー、個人主義・自由主義の意識、善悪両面があると理解する、契約関係を重視、格差を当然とする等の特色がある。

(3) 日本人の忘れていたもの（社会の原理）

- ・人間社会は母性・父性のバランスの上に成り立っていないからには、日本の社会は母性原理の意識が強い。なお、父性原理の意識を強調すると、それを統御すべき宗教が必要。
- ・社会の進化と日本社会の現状

日本の社会には古くからの神道の世界と、途中から入ってきた仏教の世界とがあるが、神道の世界は万物に神が宿るといった自然を中心とした社会であり、母性原理が強く働いている社会である。仏教の世界は真言宗（大日如来）、浄土宗（地獄極楽）に見られるように、父性原理が機能している世界であり、武士道、武家社会もこの流れに沿っているものであった。

それが明治維新後、廃仏毀釈で仏教が衰退したのに合わせ、武士道も衰退し、現在の日本は母性原理が強い社会となっている。（安全保障はアメリカ任せでプリンシプルの無い日本）

西欧の社会は、キリスト教の世界であり、神への奉仕と言う使命感を持った父性原理を基本とした社会であるが、フランス革命からの影響で、自由、平等、博愛と言った母性原理も入り、父性原理と母性原理とがよく調和した社会である。

中国人の社会は無宗教の社会であり、行動原理としては、面子を重視し、孫子の兵法、「厚黒学」（厚かましく腹黒く生きよ）の世界である。

(4) グローバル環境への対応に当って日本人に必要な理解・意識・知識等

- ・文化の差を決めているもの（進化・発展に係わる世界観、言語環境や宗教道徳の差等）への理解が必要。
- ・異文化への対応に必要な意識として、父性原理の意識と率先型リーダー意識、世界を俯瞰する眼、**Intelligence** と **Risk** への対応力が必要。
- ・リーダーの持つべき基礎的な知識としては、人間学（人間の文化に対する基礎的な知識）、

経済学、自然学（科学技術の世界）が必要。

(5) グローバル環境への対応に当たってのこれからの日本

- ・現在は独自に進化・発展してきた人種・民族・文明が統合されシャッフルされる過程にある。
- ・対応として、意欲ある人達が「試行錯誤」「自由競争」を繰り返しながら次の時代を築くしかない。（よきリーダーが必要）
- ・今後は、海外に展開する力のある人達・企業と国内中心の人達・企業の二極分化が進む。

(補足) 日本の原子力事業のために

(a)国内事業の発展

安全対策（父性原理の世界+理系の世界）

- ・原子力発電のメリットとリスク（危険）を明確にする。
- ・リスク対策のルールを関係者で共有し厳格に守る。
- ・常に新しいリスク（地震等を含む）と対策への研究を継続・加速する。

安心対策（母性原理の世界→日本の課題）

- ・信頼関係を構築する。（地元のリスクに対し、メリットを適正に構築する）
- ・誠意を持って迅速に対応する。（不都合なことも隠さず、公表し共有する）
- ・不安を煽る要素を、原因を究明して、丹念に潰していく。

（規制当局のあり方も見直す）

(b)海外事業の展開

- ・海外事業を展開するためのベースとなる組織（会社）を作り、情報の収集蓄積、人材の育成確保、事例教訓の整理等を継続して行う。
- ・日本型発想からの脱却が出来るかが最大の課題（文系と理系の融合）
「謙虚・感謝・危機管理」の意識が重要

主な質疑応答

Q 中国との対比で「厚黒学」について初めて聴いた。

A 毛沢東が「厚黒学」を読めと言った。中国共産党の中で必読の書となっている。

Q 母性原理、父性原理の対比を興味深く聴いた。

A 神は誰が作ったか、日本人の教えでは、神は自然の中から生まれた。受身の考えである。西欧では、神が人間を創り、神を中心とする社会（神への奉仕—使命感の社会）である。

Q 安全保障は米国任せ、日本にはプリンシプルが無いと言うが、国としての問題は何か。

A 日本は戦後60年の間トップとしての反省が無かった。特に、海外と比較した反省が必要。今尚、厳しく反省するよりは、母性原理の世界で、お互いを庇い合っている。

Q 原子力に係わるコミュニケーションのあり方について大変興味深く聴いた。日本では常に challenge が無くて対策しかない。今後は原子力に係わるメンバーが教育系の大学に行って、教師を変えていくことが重要と思うがどうか。

A 教育改革の必要性がある。日教組は超保守である。そこを変えていく必要がある。

Q 根源にあるものは何をやっても変わらないように思えるが、変えようとすれば、徐々に進化していくものなのか、急激に変わるものなのか。

A 確かに、時間は掛かるかも知れない。しかし、進化させようとする動きをサポートして

いく必要がある。道徳的にもしっかりした意識を持った人が出てきて変えるしかない。

Q 中国の台頭が顕著であるが、中国に対して日本はどう対処すべきか。

A 日本は中国の伸びを止めようが無い。日本がそれによって引っ掻き回されないようにするためには、日本文化とは異なる中国文化を良く理解することが必要。

以 上 （佐藤祥次 記）

（出席者）

荒井利治、石井正則、泉溪鹿、伊藤睦、上田隆、小川博巳、小野章昌、金氏顕、後藤廣、税所昭南、齋藤修、齋藤健弥、齋藤伸三、佐藤祥次、竹内哲夫、宅間正夫、太組健児、辻萬亀雄、土井彰、中神靖雄、西村章、橋本哲夫、林 勉、古田富彦、益田恭尚、松永一郎、三谷信次、山田信行、由岐友弘、若杉和彦。